
マリオの恋

相澤有

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

マリオの恋

【Nコード】

N3253F

【作者名】

相澤有

【あらすじ】

インキャラといわれる女子のまり、そしてりおのラブコメディ？
???

「第1話」

君のおかげで
私は変わった
ありがとう
そして大好きッ

。。登場人物。。

江藤 まり【高1 暗いといわれがちな主人公】

吉村 りお【高1 優しく、まりの隣の席で隣の家】

佐田 ふじえ【高2 りおを狙っている年上というのもあるが大人っぽい】

♪。。。。第1話。。。。♪

????女「い・・・あい・・・あり・・・まり・・・
まありいいいッ!!」

まり「ハッ何ッ!!!!!!何なの・・・」

姉「もうーーーー、遅刻すんぞおッ」

まり「あ、な、何時で、ですか……。」

姉「おいおいッ姉に敬語とは、変わった妹を持ったもんだア」

美人な姉、スタイルが抜群な姉、頭の良い姉、運動神経が良い姉……

全部を私は見てきた。

何もかも懂れていた。

全部が大好きだった。

でも、私は全然違う……

不細工で、少し太ってて、頭が悪くて、インドアな私……

全く違う、全然違う。

比べ物にならないくらい違う私……

そんな姉を誇りに思った。

姉「ちょっと……起きてよッあと10分で支度する気？」

「ご飯食べた後、お母さんにあいさつしなさいよ?」

まり「分かってる」

お母さんとお父さんは死んだ。

一昨年の話だった

交通事故で死んでしまった。

今は、姉が働いて私の生活を支えている。

まり「いつてきます」

姉「気を付けてね あ 弁当弁当ッ!」

まり「あ うん……」

姉「ハイツ行ってらっしゃい 後でお姉ちゃんも行くからね 気を付けて」

まり「うん……」

姉「あとッりお君によろしく」

まり「わかったわかった、じゃあ」

姉「うんッ」

りお「おいッおせえぞッ」

まり「ご、ごめんッ」

りお「まあいつかつその代り……メロンパンおこれよッ」

まり「うゝ……分かった。」

？女「うぁッまりおちゃんッ」

まり「玲奈先輩ッ」

玲奈「おっひさぁ」

りお「お久しぶりッす」

？男「誰??後輩??」

玲奈「そそ、あ、まりおッこの人うちの彼氏ぢやぁ」

まり・りお「「こんにちわ」」

玲奈先輩の彼氏「まりおって??」

玲奈「あぁッ紹介してなかったねえ、この女の子がまりで、男がりおだからまりおッ」

玲奈先輩の彼氏「ふうん、面白いねえ」

玲奈「ぢやあ、2人っきりの時間を大切にいゝ」

まり・りお「さようならッ」

やっぱ、カッコイイ。

常に美人を追及している先輩。

私服も制服もちゃんとアレンジされてて、お洒落。

何もかも憧れる。

りお「おいッ行かないのか??」

まり「ボーっとしてた……」

りお「そっかッ」

ニカッと笑った顔がたまらなく愛しかった。

りお「おいッ着いたぞッたつく、ホントにボーっとしてるなァ」

まり「ゴ、ゴメン。」

???女「あ、りおくん」

ぎゃッ私が人類(?!?)で1番苦手とされている類の………

ぶりっ子。

りお「あッ俺はまりの物みたいなんでッそれじゃ」

タタタタタタタッ

これって失言っていうのかな!!!!!!!!!!!!!!ヤバイヤバイヤバイ
ヤバイヤバイッ

続く

「第1話」(後書き)

さあさあ、はじまりました。マリオの恋。けっしてあの有名なゲームの主人公が出てくる話じゃないのでッそこんとこよろしゅうオネガイシマスッ♪

「第2話」(前書き)

さあてさあて、まりおの恋始まりました。失言(！?)をしてしまった、マリコはその話を撤回しようとして……。まあ、最後までお見逃し無く、(なんかの番宣みたいッ)(笑)

「第2話」

まり「だ~~~~ッ いいいいいい今は、無かったことに「するわけないじゃん」」

こんにちは、前回失言をしてしまった、マリです。

どうしよ……どうすればああ？？

ていうか、あそこから逃げてくる後も

レイ「なあにいいいいッよおおおおお……！！！！リオ君は……
レイのもんだもおおおおんッッ……！！！！」

と、言われつづけ、にらまれ続け……大変でした（苦笑

かいそう終了」

りお「まっさかなあ、マリが俺に告るなんてなあ」

まり「ご……ごめん……」

りお「謝っても無駄だしッ！ー周り、目が鱗だったよ？？」

まり「ごめん……、びつくりしたでしょ？べ、別にそんな気はないし……」

そういつた瞬間、りおはこっちを冷たい目で見つめた。

りお「そ……、そっか、なあんだッ変な勘違いしてたしッまあ……、いいやッ」

まり「えッご、ごめ「あやまらないで？」」

りお「もう、俺と登校すんの、やめる？楽しくないでしょ、俺といても。」

まり「えッ、でもメロンパン買わなきゃ」

りお「いらないから……、ねッじゃあ……」

私「……嫌われた？」

リオだけには嫌われたくなかった

リオだけが私を優しくしてくれた

リオだけを見ていた

リオが好きじゃなかったの？

いや、好きだった。

あの、ぶりっ子より

リオのファンクラブの女子より

私の方が・・・・・・・・・・

なんで私はそんなこといったの？

りお「レーーーーーイッ」

レイ「ヤアツパ嘘っぽいなあん???」

リオ「えッ?」

レイ「レイのこと嫌いっぽい気がするう」

リオ「そんなことないにきまってんぢゃん」

レイ「じゃあ………キスして?」

リオ「え? うん、いいよ? 今、俺もしたかった。」

レイ「えへへエ」

や………やだ、やだやだやだやだやだ
ッ!………!!

わかってるのに、わかっているはずなのに………

わかってよッ私……

レイ「ふふッしいあわあせッ」

リオ「そおれは、よかったなあ……レイ姫様ッ」

私は、もう逃げるしかなかった

Ⅱ 第2話Ⅱ（後書き）

まあ、たまに名前がひらがなになったり、カタカナになったり、ラジバンダリー ぢゃなくて・・・ になっているのできにしないでくだはいッ

「第3話」(前書き)

まだでホンキで遅くなってすみません。最近忙しくて忙しくて()
泣 相澤(作者の苗字)の力は皆さんのお言葉なんで、お話の感想
ドシドシ待ってます。てか、してくださいッ。後、毎度毎度字の間
違いや日本語のあり方(!?)などの間違いも気にしないでください。
い。こりやまずいだろと思ったらさすがに言ってください。ではで
は長くなりましたが、お楽しみください。by 相澤

「第3話」

る――――

る――――

どうしよあ

姉「ど、どうしたッまり」

マリ「お姉ちゃん・・・」

姉「珍しいね、私のところなんて」

お姉ちゃん、は学校の隣にある、会社に働いているんだ。

だから、学校内からお姉ちゃんとしてしゃべれるんだ。

姉「ハア???どうした」

マリ「あのね・・・」

私はお姉ちゃんに全部を話した。

姉「そつかア・・・それはマリが悪いと思うよ?」

マリ「えっ・・・・・・・・」(泣)

姉「エッちよつと待ってッ!!今からでも撤回できる方法があるからっ」

マリ「えッ!!あるのっ」

お姉ちゃん「ん・・・・・・・・と、ゴメン話変わるけど・・・・・・・・マリ変わっ・・・・・・・・た?」

マリ「ど、何処らへんが?」

お姉ちゃん「んー全体的に??明るくなった。」

マリ「えっホント??自分では何にも感じない……。」

お姉ちゃん「そ??大分変わったと思うけど?。」

マリ「そっか、私も変わってきたんだあ。」

お姉ちゃん「うん。」

何が変わったのかわかんないけど、

嬉しいッホント嬉しいッ♪

一歩ずつでも私は変わってきたんだ。

お姉ちゃん「で、話し変わるけど……。」

マリ「うん。」

お姉ちゃん「マリは、リオ君を呼び出して、謝らなければならない。」

マリ「無理」

お姉ちゃん「ぢゃあ、ダメだね。マリはリオ君と一生元に戻らない
っ」と

マリ「うッ……………」

お姉ちゃん「さア、どうするッ」

マリ「え……………」

お姉ちゃん「負けるなッ女の意地見せろ、マリ」

マリ「それって、意地ぢゃな、そんなこといいのよッいいのッ」「」

お姉ちゃん「私はマリを心配してるんだよ?????」

マリ「わ……………わかったよ……………頑張ってみるッ」

お姉ちゃん「マリ、変わりなさいッ!」

マリ「ハイッ」

そうして、私は

リオを呼んで謝ることにした。

*****教室*****

マリ「リ……リオ君いる??」

???女「ん??」リオ君に振られた江藤さんちゃんッ

何ッ??また告る気?????アハアハッつけるしい」

???女2「ま、振られるにきまつてるけ・ど??」

???女「ま、呼んであげますかッ」

この人たちはリオのファンクラブ会員の人

ムツチャ私のことが気に入らないらしい・・・

リオ「何？」

リオの冷たい目線。。。。

痛いッ痛いッ痛いッ痛いッ

マリ「ちょっと来てくれる??」

リオ「ん」

麗華「なあにしてんのお?リオ」

マリ「うあ」

香水臭い、ヤバイ吐きそうッ

なんか髪の毛盛り盛りだし

メイク濃くなってるし

最悪・・・

麗華「何ッこの子、レイのリオにふられたってのに、

つきまとってるってわけえ???」

リオ「違うよッ俺はレイだけが好きだから

ただの知り合いだしッ」

麗華「なあんだあッよかったあ♪

レイだけのものなんだもんねッ」

ちゆ

うあ

泣きそう・・・

麗華「ん???マリこなんでレイ顔なんでみてんの??

あ、分かったあ!!レイのメイク気にいったんでしょッ

むっちゃきにいつてんのお」

マリ「アハハッそうだよ」

私ムツチャ棒読みだ・・・

リオ「で、何のよう??」

マリ「ちょっと話があるから、連れてっていい??」

麗華「リオがよければッね」

きげんむっちゃいいなあ

リオ「じゃ、いいよ」

短文・・・

マリ「じゃあ、屋上いこっか」

続く

「第3話」(後書き)

最後まで読んでくださってありがとうございました。ややッ結構が
んばってますよ、マリは。書いている私でもなんか応援したくなり
ます。作者もなんかマリとキャラがにてるんですよ、暗いんですよ
私。だからすごくマリの気持ちかわかりますわぁ、あ、もうそろそ
ろやめにします。ごめんなさい、ほんとに読んでくださる方々に感
謝感激ですわ。ばかな相澤のへなちょこ小説をよんでくださってあ
りがとう！！これからもよろしくおねがいします

b y相澤

「第4話」(前書き)

さてさて、まりは本当のことをいえるんでしょうか……、私は
いえないけどッ(笑)

「第4話」

リオ「で……何?? 早く帰りたいんだけど?」

マリ「えつと……………」

声が…………でない

マリ「私…………リオ君と元に戻りたいの」

リオ「は??」

冷たい目

冷たい声

嫌だツツ

マリ「ごめんなさい…………私は、ホントは……………」

リオ「・・・・・・・・・・」

言わなくちゃ

今言わないで何処^{いつ}いうの??

マリ「リオ君のこと・・・・・・・・好きなの。」

リオ「・・・・・・・・・・」

私はあなたを愛してるの・・・・・・・・

愛してるの・・・・・・・・

愛してるの・・・・・・・・

「
リオ「じゃあ、なんで??なんで、あんなこといったんだよ・・・・・・・・」

マリ「恥ずかしかったの、照れ隠しのツ・・・・・・・・」

ゴメンネ・・・・・・・・ごめんなさい・・・・・・・・。」

リオ・・・・・・・・愛してる愛してる

リオ「遅い・・・・・・・・遅すぎる。」

マリ「ほえ?？」

リオ「マリは遅すぎるんだよ・・・・・・・・色々」

マリ「えッ」

リオ「大好きだよ・・・・・・・・俺だっ」

あ・・・・・・・・

私を抱きしめてくれた

ちょっと痛いぐらい・・・

こんなにおもってくれたんだね？？

貴方のおかげで

生まれ変わった

よかったあ

「なんでぶりっこと付き合ったの？」

「あ、あれのこと？　　まりにやきもち焼かせるため」

「ふん」

「第4話」(後書き)

これでこの話は終ります。読んでくださった方々さんくすアンドてんきゅうです。また、お会いしましょう(*^^)ノシ

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3253f/>

マリオの恋

2010年12月9日19時51分発行